

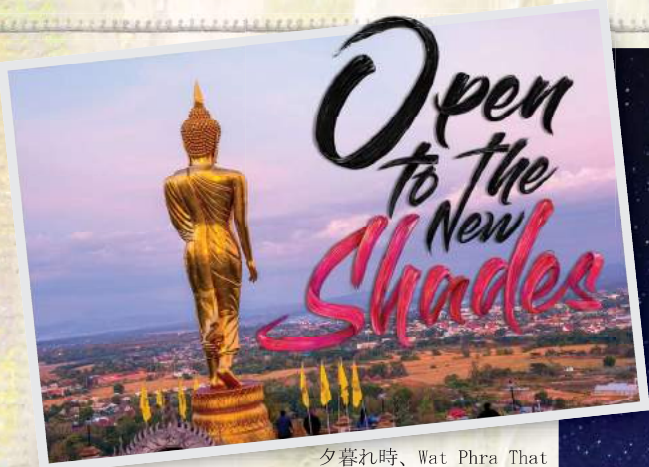
วารสาร กรุงเทพฯ คอนเทนท์

2019 JAN
VOL 27 (611)



泰国日本人会

วารสารกรุงเทพฯ ฉบับประจำเดือน มกราคม 2562



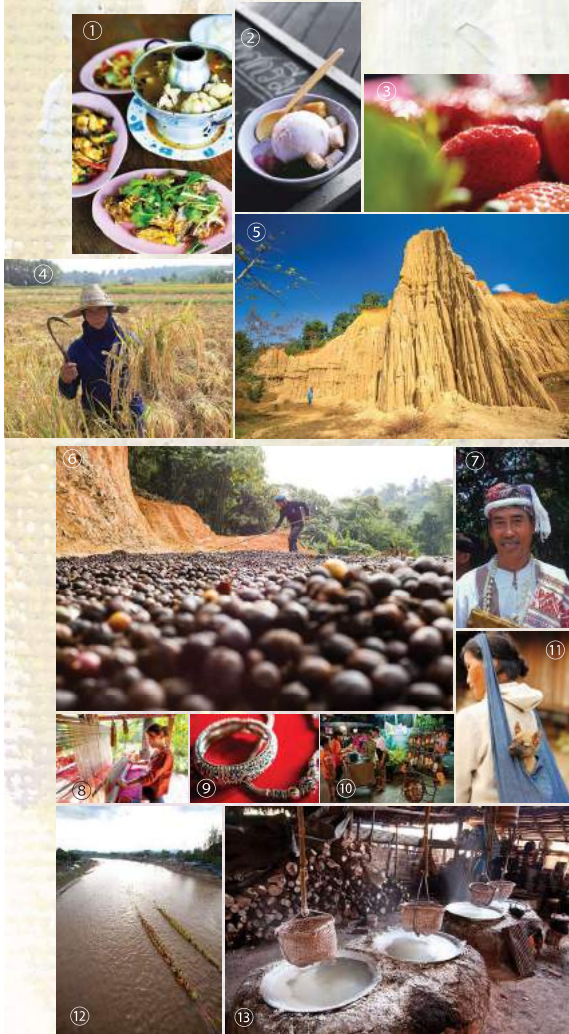
夕暮れ時、Wat Phra That Khao Noi寺院からの眺望はフォトジェニック

創刊から50年の節目を迎え 「新しい」クルンテープへ

2019年の1月号より、表紙のテーマを“Unseen Thailand”より“Open to the New Shades”へリニューアル致します。タイ国政府観光庁協力の下、五つのキーワードに絡めながら、お薦めの地域の魅力をご紹介します。

Open to the New Shades 五つのキーワード

1. ガストロノミー (食)
2. ビーチ&ネイチャー (浜辺と自然)
3. アーツ&クラフツ (美術と工芸品)
4. カルチャー (文化)
5. ウェイ・オブ・ライフ (生活様式)



①新鮮な川魚料理。県の真ん中を流れるナーン川は魚も豊富
②③完熟イチゴやスイーツに舌鼓 ④稲刈り ⑤ユニークな絶景Cok Sua ⑥コーヒー豆の天日干し作業 ⑦伝統的な民族衣装の男性 ⑧⑨手織物や銀製品などハンドクラフトも見逃せない ⑩土産物屋。「囁く人」はもはやマスコット? ⑪いっしょにお出かけ、ほっこり写真 ⑫ボートレースもナーン名物の一つ ⑬塩分を含んだ井戸水から製塩中 ⑭ナーンのアイコン的な存在の壁画「囁く人」



第1回はタイ北部のナーン県。ナーン王国として1931年まで独自の王朝が国を司っていた歴史ある県で、様々な民族の文化が今も受け継がれています。北と東をラオスの国境に面しており、自然との調和が生み出すのどかな雰囲気は、タイの人々がスローライフを求めていることでも近年注目されています。

ナーン県はタイ北部の山岳地帯に位置しており、昼夜の温度差が大きく、乾季の朝晩は10度以下に冷え込む地域もあります。チェンマイなど北部の他県と同様、ナーンもコーヒーの産地となつてい

ます。

タイ人カップルにも人気のスポット、Wat Phnumの壁画「囁く人」はナーンのアイコン的な存在。この絵は、愛を囁き合う男女と言われており、町中でも様々なグッズが商品化されているようです。

山岳民族の手工芸品はお土産品として人気ですが、800年前に掘られたと言われている塩分を含んだ井戸水から生成するユニークな製法の塩も有名です。

煌びやかなバンコクとはまた一味違う、タイの新たな一面をきつと知ることが出来る穏やかなナーンを、あなたも体験してみませんか。



vol.1 ナーン県

ナーン王国として栄えた 歴史と文化に触れ 豊かな緑の山々で星降る夜を



満天の星空を堪能
キャンプが人気の山Doi Samer Dao



P13



P31

表紙：ドイ・サマーダーオの朝日
(Doi Samer-Dao ดอยเสมอดาว)
場所：ナーン県シーナン国立公園



写真提供／タイ政府観光局
Copyright of The Tourism Authority of Thailand

1月号 目次

【特集】

04 2019年 新年のご挨拶

本年は行事が目白押しで節日の年、皆様が仲良く出来事に取り組む年
日本国特命全権大使 佐渡島志郎

次の100年につながる「より開かれた日本人会」を目指して、猪突猛進の年
タイ国日本人会会長 島田 厚

【活動報告】

- 16 スワッグ講習会【婦人部】
- 17 懇和会日帰り旅行 ウッドランドファンタジー【事業部】懇和会
- 18 ジョイントコンサートに初参加【文化部】バンコク混声合唱団

【学校だより】

- 13 第63回泰日協会学校体育祭 泰日協会学校 中学部体育主任 片山洋平
総合優勝 赤団 杉江日菜子
色別演技 最優秀賞 緑団 蚊爪美音

【作品発表】

- 10 バンコク短歌会
- 11 メナム句会



P25

【投稿】

- 26 「写経」と「写仏」でリラクゼーション 写経会・写仏会 伊藤 望

【連載】

- 02 Open to the New Shades ① ナーン県
- 08 河の都アユタヤー レヌカー・M
ポルトガルの海(4)
- 25 タイのお菓子は二度おいしい ムシカシントン 小河修子
緑豆そのものを味わう甘くない餅菓子 カノム・トゥーパープ

【広報欄】

- 12 バンコク子ども図書館 1月の新着本紹介
- 12 日本人会会員証が使えるお店 新規優待店紹介
- 20 理事会議事録(11月度)
- 24 法人企業の皆様に会議室をご利用頂けるようになりました
- 28 ゴルフ部月例会成績
- 28 編集後記
- 31 すくすく会通信Vol.9



日メコン交流年2019
のロゴマーク

本年は行事が目白押しで節目の年、 皆様が仲良く出来事に取り組む年

2019年



新年のご挨拶

新年、2019年となりました。タイ国日本人会の会員の皆様及びご家族におかれてはどのように新年を迎えられたでしょうか。

私にとつては、当地で迎える4回目の新年となりました。

昨年を振り返りますと、日本とタイの両国民の交流の絆が顕著に表れた年でした。6月の大阪北部地震及び7月の豪雨災害の際には、タイ政府や国民の皆様から、日本の被災者の皆様に対して義援金の提供などがありました。他方、タイの北部チェンライ県タムルアン洞窟に閉じ込められたサッカー少年に対するサッカー日本代表チームからの「負けるな！頑張れ！」応援メッセージや日本国民の皆様からのお見舞いを始め、JICAの排水専門家などによる救出作業現場での支援が行われました。本年は、両国とも政治・外交行事が目白押しの年となるでしょう。

日本では、まず、4月の天皇陛下御退位による「平成」という元号の終了、

5月には、皇太子殿下御即位という時代を画する出来事があります。また、4月の統一

地方選挙、7月には参議院選挙、ラグビーワールドカップやG20大阪サミットを主催する年でもあります。

タイでは、本年2月から5月の間に総選挙の実施が予定されており、また、タイはASEAN議長国として各種会議を主催し、各国要人が来訪します。

また、タイを含むメコン各国（カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム）と日本は、本年を「日メコン交流年2019」と位置づけており、タイでも多くの関連事業が開催される予定です。

現在、バンコク日本人商工会議所の会員数は約177



いけばなインターナショナル
バンコク支部創立45周年花展
(2018年11月15日)



JDFAサッカークリニック
(2018年11月18日)

日本国特命全権大使
佐渡島志郎





0社を超え（2018年10月末時点）、バンコクは日本企業の海外での一大活動拠点となっています。タイの在留邦人数（2017年10月）は、米国、中国、オーストラリアについて世界第4位の約7万3千人となり、タイは日本にとって非常に身近な存在になっています。また、2017年タイを訪問した日本人は、約155万人であり、日本を訪問したタイ人は約99万人となりました。両国の人的交流は、ますます拡大しています。

このようにタイは、日本にとって非常に重要なパートナーです。したがって、タイの経済発展のための課題は、日本の経済発展の課題であるという認識の下、大使館はタイ政府やタイ企業と積極的に協力していきます。

具体的には、東部経済回廊（EEC）開発と産業人材育成がタイの産業高度化の実現の鍵と考えています。EC開発では、日本の優れた技術を活用し、各種インフラ案件やスマートシティ開発等の分野で協力していきたくと考えています。また、産業人材育成のため、タイ高専の早期の設立等の協力を実施していきます。

これらの実現を通じて、日本とタイが、真のWin-win関係を今後一層深めていくことを心から信じています。大使館は「チーム佐渡島」として全力で取り組んでいきます。

また、大使館は、皆様の安全対策を最も重要な業務の一つに位置づけています。幸い昨年は、多数の邦人の方が巻き込まれるような大規模な事件や事故はありませんでしたが、不測の事態はいつ起こるか予断を許しません。残念ながら、東南アジア地域でのテロ活動が消滅したわけでもありません。タイは住みやすい環境からか、つい気も緩みがちになりますが、皆様におかれては、改めて身の回りの安全への意識を日頃より心がけるようお願い申し上げます。

今年7月には、参議院選挙が実施される予定です。海外に居住している日本人の方が国政選挙に投票するには、在外選挙人名簿への登録申請を行い、登録先の市区町村選挙管理委員会が発行する『在外選挙人証』を事前に取得しておく必要があります。申請から受取までには、2か月から3か月程度の時間を要しますので、満18歳以上で、タイに3か月以上居住されている在留邦人の方（3か月未満でも申請可）は、余裕をもって、お住まいの住所を管轄する大使館又は在チェンマイ総領事館に、ご確認の上、申請頂きたく存じます。

最後に、今年「平成」の時代が終了し、新しい元号の時代が始まる節目の年です。

皆様ご家族とともに、平成の時代の出来事を銘記し、新たな時代をお祝いしつつ、新たな出来事に、仲良く取り組む年となることを祈念しつつ新年の挨拶とさせていただきます。

次の100年につながらる 「より開かれた日本人会」を目指して、 猪突猛進の年

タイ国日本人会会長

島田 厚

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、お健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

私にとりましては、日本人会会長に就任して3度目を迎える新年となりますが、昨年4月の定期総会にて2期目を再選いただき、会員の皆様と共にまた新たな気持ちで、タイ国日本人会の活動を盛り上げていきたいと思っている次第です。

昨年は「より開かれた日本人会」を目指して、共通の関心事・趣味をもっている人に集まる場の提供、一人で行えないことを日本人会の組織力を活用して実現することを基本コンセプトとして邁進してまいりました。皆様

には、30の同好会や11の青少年サークル、500人参加のソフトボール大会、800人を超えるチャリティーバザー、図書館やすくすく会、毎月行われる婦人部のイベント、英検や各種ボランティア活動など、それぞれ

の立場で日本人会の活動に積極的に関わってくださいましたこと、改めて御礼申し上げます。

日本人会も、今年で創立から106年目に突入いたしますが、新たな時代に向けた改革を進めております。具体的には、昨年5月より新設の企画推進部で外部のオプザーバーの意見も取り入れながら、新企画イベント（団体や企業様とのコラボイベント）の拡充、日本人会としては100年で初めてとなる広告出稿、日本法人の賛助会員企業への門戸開放やサービス拡大を企画・検討してまいりました。今月より、個人会員の皆様のみならず、企業の皆様向けに会館を開放し、より多岐に渡った活用をしていただければと思っております。

さて、2019年は、日本・タイ国双方にとってはいろいろな局面で変化の年となるのではないのでしょうか。両国で選挙が予定されていることや、日本では新元号となり、新天皇の即位式が予定されております。新しい時代に向けた新しい両国の一步を踏み出すべく、タイ国日本人会でも皆様の日頃の活動に支えられながら、日タイ親善を更に深化させていきたいと思っております。

